

市道除雪計画、道路4路線0.9km増 昨年度から除雪業者に最低補償を拡充

令和3年度市道除雪計画書が11月18日公表されました。

除雪計画路線は、市道延長1523・6kmのうち、道路除雪3154路線1138・4km、歩道除雪146路線105・1kmです。

昨年度対比では、道路4路線0・9km増、歩道では0・1km増です。

道路用除雪機械は266台（うち市有車130台）で5台増、歩道用除雪機械27台（うち市有車22台）です。防雪柵の設置は、幹線道路などの98路線、延長23・30kmで0・9km増。

道路消雪施設は幹線道路40路線、延長15・79kmです。

凍結防止剤の散布は、幹線道路の登り坂や橋及び主要交差点等190箇所、延長25・29kmに散布します。

公共施設については小・中学校等298箇所（4増）の駐車場等の除雪作業を実施します。

10cm以上で出動

除雪機械の出動基準は、路面に10cm以上の降雪がある場合、又は午前7時まで10cm以上の降雪が予想されると認められる場合を基本とし出動します。

降雪がない場合でも道路の安全を確保するため、道路の状況に応じて剥ぎ取り・道路拡幅等を行います。

豪雪対策本部

豪雪対策本部の設置基準は、本所の観測地点（鶴岡公園の観測地点）が70cmを超え、道路事情が悪化し引き続き降雪が多量に見込まれる場合が基準です。

朝日庁舎では、大網

除雪基地の観測地点の積雪が150cmを超え、温海庁舎では、温海川観測地点の積雪が150cmを超え、道路事情が悪化し引き続き降雪が多量に見込まれる場合を基準とします。

雪捨て場

排雪場所雪捨て場の指定は、
・本所赤川三川橋上流右岸
・藤島庁舎藤島川藤浪橋上流左岸
・羽黒庁舎羽黒町手向字聖山内
・櫛引庁舎赤川櫛引橋下流左岸です。

労務単価100%

除雪委託業者の稼働時間が基準に満たない場合に、平成21年度から最低補償制度を導入。令和元年度の記録的な小雪を受け、昨年度に見直しがされました。変更点は、①労務単価の見直し（労務単価×60%から、労務単価×100%に）

②基準時間の見直し（全市一律の基準時間を、各地域、地理特性に細分化して設定する）の2点です。

藤沢周平を読む⑱

鈴木重雄（八色木）

婆はとっておきのお茶と漬物を出して、大鷲坊をもてなした。

に立つと、大鷲坊は眉をひそめた。

大鷲坊はがぶがぶとお茶を飲み、小鉢に出した茄子の浅漬を半分ほどたいたらげ、それが終わるとげっぷをひとつして、では娘に会うかと言った。

「いづもこうして閉めきつてなか？」

「暑いさげ開けて、口しよっぱぐして言うなだとも、暗え方ええなんて言うもんだし」

襖を開けると、床の間わきの小窓からさしこむ、薄暗い光の中に寝ていた娘が、驚いたように首をもたげた。

大鷲坊は、娘と2人きりにしてもらいたい。その間座敷をのぞいてはならんと言ったのである。2人きりになって何をするかと言つて、娘の体を調べると言った。

「あら、おとなひた。とおとしは思った。おとしも半年ぶりに会ったのだが、もつと子どもっぽかったような気がした。」

「家の衆はみんな田んぼさ出でいねどこで、そんなごさいでは困る」と婆は言った。

「きく。この人はの、今度お宮サ来た山伏どで、お前の足なおしてくるって」「…」「ンださげ、よく言うごど聞けよ」

三左門の婆も、もつともだと言つ気もした。おきくは病人と言つても16の娘である。山伏の修法と言つても、2人きりにしろの、身を調べると言うのはおだやかな話ではない。

「おきくは黙っていたが、一瞬刺すような眼で大鷲坊を見、すぐに視線をそらし頭を枕に戻した。」

三左門の婆は、「むかしおらの小ちえ頃、村さいだあねゴが2人腹大きくなつての。誰だ誰だて騒いだば、それが山伏で」「山伏だて和尚だて男は男で油断なんねえもんださけ」

「暗いご好きが」不意に大鷲坊が言った。

すつかり危険人物扱いされている大鷲坊の姿がつかんでくる。

縁側を回つて襖の前

「さきくちゃん。この人が、お前の足なおつがどうが、はじめに調べで見でつて。それで、おれ、立ち会いサ来たなださげ」

「暗いご好きが」不意に大鷲坊が言った。

縁側を回つて襖の前

「暗いご好きが」不意に大鷲坊が言った。

縁側を回つて襖の前

「暗いご好きが」不意に大鷲坊が言った。

縁側を回つて襖の前

「暗いご好きが」不意に大鷲坊が言った。

縁側を回つて襖の前

「暗いご好きが」不意に大鷲坊が言った。



令和3年度

市道等除雪計画書

鶴岡市

「請願「戦没者眠る土砂を使わないで」 総務常任委員会不採択 加藤鉦一議員は賛成

鶴岡市議会12月定例会に出された「沖繩戦戦没者の遺骨を含む土砂を埋め立て等に使用する計画の中止を国に求める意見書の提出を求める請願」（若者なりに社会を考える会・つるおかPITTOPE・代表 菊地将晃）が7日、総務常任委員会（佐藤昌哉委員長）で審査され、反対多数で不採択となりました。

請願は、自筆519人、オンライン183人の計702人の署名も添えられました。

請願者を審査？

佐藤博幸議員（新政クラブ）は請願者や署名について質問し、討論で、「普天間基地の返還は一刻も早く実現しなければならぬ重要な課題だ。近隣諸国からの軍事

的脅威に対する抑止力の点でも大きな問題だ。

地方自治体が国に対して、外交防衛問題について意見書をあげることはなじまない」と述べて反対しました。

共産党の加藤鉦一議員は討論で、「反対者は請願の主旨について審査しないで、請願者について審査しており、逸脱していると感想を持った。請願文にはない、基

地問題や外交防衛問題を理由に反対することは、余りにもかけ離れており、論理的に成立しない。

戦没者が眠るこの地の土砂が、再び戦争につながる軍事基地のために使われてはならないとの一点で賛成」と述べました。

賛成は、加藤鉦一議員（共産党）、石井清則議員（市民フォーラム）の2人。

反対は、佐藤博幸議員と本間新兵衛議員（新政クラブ）、小野由夫議員と佐藤久樹議員（無所属）の4人です。

ひと

日下部勇一（庄内町榎島）

波瀾（乱）万丈の人生

青山 崇

■分校から本校へ

勇一は子どもの頃から、題名のごとく波瀾万丈だった。眉毛の下にスコップを当てられ、今も傷跡が残る。

学芸会の「花咲爺さん」を何回練習してもうまくならず、先生から叱られる。

全校あげての行事などで本校に行くと、3年生が窓から顔を出し、「分校のヤロダきた」とからかう。時には取っ組み合いの喧嘩もした。

本校の親分はS君。分校にもK君ら数人の強者がいた。本校のS君を負かせばいいと相談、彼を負かした。

それ以来、勇一たちが帰る時など、昇降口まで来て見送ることもあった。「仲良くなった証であり良き思い出」と言う。

2年生で分校は終わり、約5kmの本校に通



日下部勇一 小学校4年頃、前列真ん中

った。

帰りは吉田堰の土手の草花を摘み、夏は「雨乞い沼」と「上沼」があり、そこで泳いだ。ある日上沼で泳いでいたときに、深みにはまって溺れかけた。幸い先輩のK君がいて助けてもらい、感謝、感謝であった。

明治から圃場整備が、庄内のあちこちで始まる。

それ以前の庄内平野は、方々に沼や小高い丘があり、子どもたちの「水浴び」、スキーなど遊び場が沢山あった。



大きな迷惑

オスプレイから水筒が落ちたんだ。それは金属の水筒だと言うが、なぜ大変な速さで飛んでいる飛行機から落ちるんだ。当然窓は空いていないはず。だからなぜなんだ。沖繩のこの事件は、米から説明があつたんか。迷惑な。

▲先月の30日青森空港に緊急着陸だ。緊急事態だからと燃料タンク1個を近くに投棄しての着陸。夜の暗いのに、安全な場所を選んで落とすと言っているよ。うだが、もう一寸で大惨事になる距離だった。大迷惑だ。

▲どんな緊急事態だったかは明かさないだろうが、片方は岩木山に落とした。後日発見。素人考えでは、緊急事態での投棄ならば、両方一緒に落とすんじゃないの？だって、パランスがとれまいって。

私なども「道草」して

「また、みじくさ（道草）してきで」と、親から怒鳴られたものだ。

ところが、近年、環境心理学、環境行動論という学問ができて、道草研究が進んだ。これまでの通念は、事実と違い、実際は道草にはさまざまな価値・効用があるという。子ども達の精神の成長や、社会に役立つというところで、「道草のできるまちづくり」が実施されているところもあるという。

▲いつもの事ながら政府は、原因究明と再発防止、安全性が確認されるまでの飛行停止を申し入れたようだが、どつちの耳で聞いてんだか、事故は無くならないよ。燃料タンクの投棄でシジミ漁が出来なくなったことを思い出すでしょ。これまでも数多くの事故が。

▲このところ、不時着と称する墜落が無くていいと思っているが、首都東京でと黒部ダムではオスプレイの超低空飛行の写真が出ていた。事故は起こすし、日本の法律は守らねえ。日本の安全を保障するといながら、何やってんでえ。大迷惑だ。

▲米の要求で予算の増額を口にすれば、増額を歓迎すると言っては思いやり予算を増やせと言うし。政府はこれに応ずる模様。米には、呼べば応えてメンコイゾ・だろ。岸田内閣、許せねーぜ。（石川）